



no.2

HAIRDRESSER / TOP STYLIST

美容師 / トップスタイリスト



PEEK-A-BOO 青山

いとう・さゆき

伊藤 雨潔さん (31歳)

伊藤さんの専門学校時代

出身校: ハリウッド美容専門学校 / 美容科
学んだこと: ヘア、メイク、ネイル、エステ、和装・着付などの美容技術と、美容技術理論、関係法規、物理化学などの美容理論
好きだった科目、得意だった科目: 国家試験課題にあたるパーマ・ワインディング

伊藤さんの社会人生活

今の仕事: 美容師 / トップスタイリスト
仕事の概要: 都内で10店舗を展開するヘアサロン「PEEK-A-BOO」の、青山店(本店)所属のスタイリスト。ヘアカットがメインだが、お客さまから要望があればメイクも行う
仕事の経験年数: 10年
仕事の楽しみ: お客さまとして、中学高校の同級生がたくさん来店してくれる。何人か重なり、店内で“プチ同窓会”になることも!



私の選択

15歳

高校入学
 東京都立駒場高等学校・普通科。中学時代からバスケットボールに打ち込み、「女バス」が一番強い高校を希望して進学。

20歳

専門学校卒業・就職
 2年間の勉強を終えて、在学中に美容師免許(国家資格)を取得。PEEK-A-BOOに入社し、アシスタントとして原宿店に配属。

現在

今の仕事
 スタイリスト、シニアスタイリストを経て、2019年9月にトップスタイリストに昇格。ピーク時は、1日に15人ものお客さまのヘアカットを行う。

18歳

高校卒業・専門学校入学
 小さい頃からの「美容師になる!」という夢をかなえるため、高校卒業後、ハリウッド美容専門学校に入学。

25歳

本店に異動
 2013年5月、現在の青山店(本店)にアシスタントとして異動。4カ月後にスタイリストデビュー。

仕事のおもしろさ

お客さま、職場の先輩・後輩、家族……
“みんなのハッピー”が私のやりがい

私のやりがいは、仕事を通じて**“みんながハッピーになってくれること”**です。お客さまならば似合う髪型をご提案してスタイリングし、サロンで心地よい時間を過ごしていただく。するとその方の気持ちがアガりますし、ライフスタイルそのものが素敵に変化することもあります。**お客さまがきれいになり、カッコよくなって、毎日楽しく過ごしていただけることが生きがい**なんです。また、先輩が心地よく仕事ができるようサポートすること、後輩が早く上達できるようアドバイスすることも大事にしています。そうしてみんなが喜んでくれると、私自身も笑顔でいられて、みんなハッピーに!



Q AND A



Q.美容師を目指したのは?

A. 6歳まで台湾で過ごしました。台湾ではシャンプー・ブローが日本円で200円程度だったので、小さい頃からよく美容院に連れて行ってもらいました。それで日常的に美容師と接するうち、その仕事に憧れて。高校時代、先生は大学進学を勧めてくれましたが、私は早く美容師になりたくて、早く技術を覚えて上達したかったので、美容専門学校に進学しました。

Q.専門学校時代に頑張ったことは?

A. 私の通った専門学校では、技術を競う各種大会に学校代表として出場する学生をコンテスターと呼んでいました。2年生のときに選ばれて、全国学生ヘア技術コンテストのワインディング部門で、最優秀賞を受賞することができました(全国約300名の出場者の頂点)。実は1年生のときに代表になれず、とても悔しい思いをしました。その悔しさをばねに、毎日10時間以上練習し、念願の全国1位になれたことがよい思い出です。

Q.今でも役に立っている専門学校の授業は?

A. 美容師の技術の基礎は「ワインディング*」に詰まっていると、私は考えます。専門学校時代、それを一生懸命やったことが今も役立っていると思います。例えば、頭の角度を見ながら髪をまっすぐにとかす作業を「シェイプする」と言います。姿勢や目線の保ち方など含めて、就職したての頃は職場でも指導してもらえますが、基本的な動作を学生時代にしっかり身に付けていたので、職場の先輩のアドバイスが頭と体にすっと入ってきました。

*頭髪をブロックに分けて、ロッドを均等に巻き付ける技術。

Q.専門学校時代に「成長できた」と思うことは?

A. 私はすごく負けず嫌いで、何でも1番でないと気が済まないタイプ。高校まではライバルなんて必要ない!と思っていたほどでした。でも、同じ目標を持つ専門学校の仲間と出会い、コンテストに出る・賞を取るといった目標に向かって切磋琢磨し合えたことが「財産」になりました。仲間がいるからこそ頑張れるし結果も出せる、上を目指せる、ということに気付きました。

HER TOOLS!



進路選択をする高校生の皆さんへ

好奇心を持ってさまざまな体験をして“好き・得意”を見つけよう

私は専門学校時代、「ワインディング」の練習に時間を費やし過ぎました(笑)。もっとたくさん本を読み、旅行に行き、人と会うといった多くの“体験”にも時間を使い、表現力を磨いておけばよかったと思います。ただ私の場合は、好きなこと・得意なことが昔からはっきりしていたし、好きだからこそ仕事にのめり込めて、たとえつらいことがあるときも頑張ることができる。大人になったら働く時間が生活のほとんどを占めますから、その時間をつまらなく過ごすより、楽しいと思って過ごす方がハッピーですね。今のうちに好奇心を持ってさまざまなことを見聞し、体験し、その中から“好き・得意”を見つけていってください!



Q.美容師国家資格の取得は大変?

A. “専門学校の授業をきちんと受けていれば必ず取れる”と思います。私の通った専門学校は“国家資格を取る”ことを目標にカリキュラムが組まれていて、実技はもちろん、座学だけでも関係法規や物理化学など10教科はあったと思います。高校の授業と変わりませんね(笑)。でも、美容のことが好きで、美容師になる目標があるなら、たとえ手先が器用じゃなくても、資格は取れると思います。

HER BIBLE...



Q.仕事を始めてから挫折を感じたことはある?

A. もちろんあります。学生時代にもものすごく勉強・練習していたのにうまくできず、「もっと私はできたはずなのに……」と、くじけそうになったことも。美容師の仕事は、1年目はまず掃除、そしてシャンプー、ヘッドスパ、カラー、パーマ、接客……と、マルチにこなさなくては行けない。すべてを完璧に!と思いがちで、「できない自分」という壁にぶつかったこともたびたびです。そんなときに支えてくれたのは家族や仲間、そして専門学校時代に頑張ったという自信と、「絶対、美容師でやっていく」という熱い思いでした。

Q.これからの目標は?

A. 私はトップスタイリストになりましたが、ディレクター、アートディレクターというさらに上のランクがあります。それはコンテストの審査や人材育成といった役割もあるポジション。私はこの会社が大好きなので、ずっと働き続け、「女性初のアートディレクター」を目指したい。そして美容師の仕事は技術であれ接客であれ、“一生勉強”です。お客さまをはじめとするみなさんのハッピーのために、美容師として技術を磨き、お店をより立てていく存在でありたいと思います。

